

埼玉県農林部 - 長雨対策 レレレレ 20150908

ハウス(ハウス) 作業へ

大豆

- 1 茎葉が軟弱になると葉焼け病、多湿になるとべと病、紫斑病などの病害の発生が助長されるので、必要に応じて防除する。
- 2 降雨による滞水を防ぎ、ほ場の乾燥を速めるために、排水路の点検、再整備を行う。

野菜

◎露地なす

- 1 日照不足により果実肥大が遅れ、着色不良も生じているので、受光条件が良好となるよう整枝・誘引、摘葉管理を適切に行う。また、形状不良果や病果を早めに摘果するなど草勢維持と品質確保に努める。
- 2 茎葉の繁茂やなり疲れにより、うどんこ病の発生が懸念されるので、薬剤による早期防除に努める。
- 3 褐色腐敗病等の発生が懸念されるので、早期に病果の摘除を行うとともに、適切な薬剤防除を行う。

◎いちご

- 1 炭疽病の発生はやや少ないが、日照不足に伴う軟弱な生育により病害の発生しやすい環境にあるため、定植期までは病害の発生に注意し、早期発見、早期防除に努める。
- 2 晴天の日中を除き遮光資材の被覆は除去し、できるだけ光線をあて徒長しないよう苗を育成する。

◎抑制きゅうり (ハウスでつくっていきゅうり)

- 1 日照不足により根張りが悪く、軟弱徒長の生育となるので、施設の換気に努めるとともに、少量かん水で適度な土壌水分管理として、根の活性を高める。
天候回復時の急な高温・強日射によりしおれや葉焼けを生じやすくなるので、遮光資材の利用や葉水を行って急激な蒸散を抑制する。
- 2 うどんこ病、べと病、褐斑病等が発生しやすい条件なので、ハウス内の換気通風に努め、早期発見に努めるとともに薬剤の予防散布を行う。

◎ねぎ

- 1 梅雨期以降から根いたみによる生育不良や黒斑病の発生がみられるため、早期発見に努めるとともに定期的な薬剤散布を行う。
- 2 気温が低く推移すると小菌核腐敗病の発生が懸念されるため、土寄せ前は必ず薬剤防除を行う。

◎ブロッコリー、キャベツ

- 1 定植済みのほ場では、天候が回復次第早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する。
- 2 育苗中の苗は、苗床やセルトレイ内の土壌の適湿が維持されるよう unnecessary かん水を避け、根群の発達を促進する。
なお、天候回復後の急な高温・強日射によりしおれや葉焼けを生じやすくなるので、遮光資材の利用や葉水を行って急激な蒸散を抑制する。
- 3 多湿によりべと病・黒腐病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

◎こまつな・ほうれんそう等の軟弱野菜

- 1 日照不足により、葉色が淡く軟弱な生育となり、日持ち性も低下しやすいので、収穫5～6日前に被覆資材を除去し光線を当てて、収穫後は速やかに予冷するなど品質保持に努める。また、多湿により病害の発生が懸念されるため、防虫ネット等で被覆しているものは、通風を良好にするよう努める。
- 2 こまつなやみずなでは白さび病の発生が懸念されるので、ハウスやトンネルの通風を良好にするとともに、発生前から薬剤防除を行う。

果 樹

◎ぶどう

- 1 ぶどうでは収穫前に糖度や酸抜きの程度を食味調査し、適切な品質になってから収穫を開始する。

花植木

- 1 軟弱徒長の生育で病害虫が発生しやすい環境にあるため、必要に応じて薬剤防除を行い、病害虫の発生・蔓延を防止する。
- 2 施設栽培では施設の換気を図るとともに晴天時には適切な遮光管理を行い、葉焼けを防止する。

埼玉県農林部 7月～8月 2015.09.08

◎農薬は最終有効年月までに、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、使用してください。農薬の最新情報については、農産物安全課のホームページでご確認ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nb/arfdnouyakutourokuhenkou.html>

徒長(とちよう) : 植物の成長の伸び過ぎる 様 光不足

①日照不足

②水分過多 - 昼と夜温の差に配慮して水分量を調整する

③風が無い - エアレス

④土壌過多

⑤肥料過多

うね = 10g/m²